

子どもは有能な学び手——

「個別最適な学び」 の本質に迫る

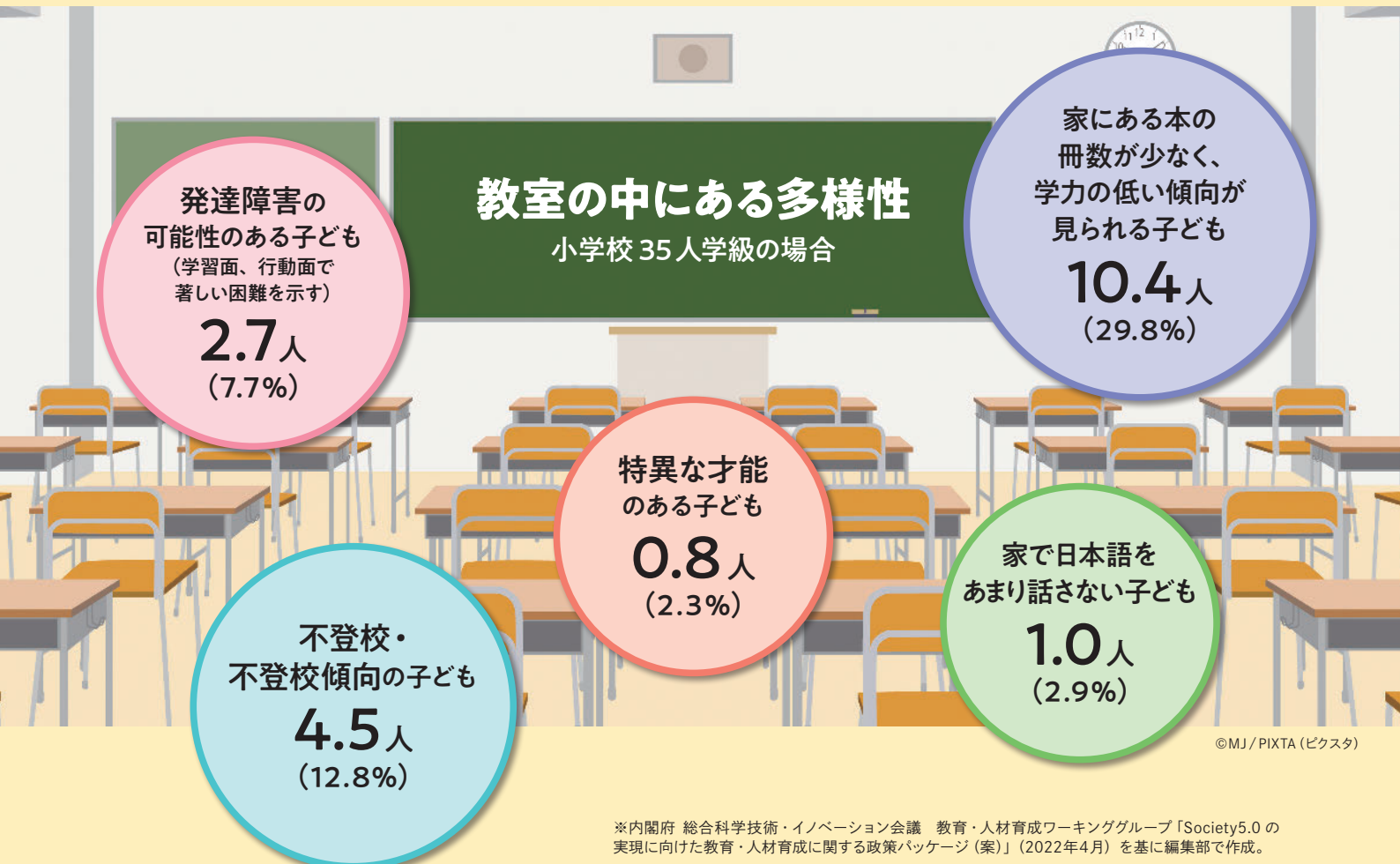
2021年1月に公表された中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」において、「協働的な学び」と一体的に取り組むことが示された「個別最適な学び」。

その実現のためには「指導の個別化」と「学習の個性化」が必要とされているが、学級内には多様な特性のある子どもが存在する中で、

学校現場では、一人ひとりが成長していく学びを保障するための様々な取り組みを進めている。

その際、「個別最適な学び」の本質を正しく捉えることで、より個に応じた学びが実現するだろう。

そこで今号では、「指導の個別化」「学習の個性化」を積極的に推進する学校・教育委員会の事例、及び本分野の研究・発信を続ける有識者と教育委員会による座談会から、その本質に迫る。



※内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 教育・人材育成ワーキンググループ「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ（案）」（2022年4月）を基に編集部で作成。